

# 小規模企業の景況

(令和元年7～9月期)

大阪商工会議所による小規模企業の景況調査(四半期毎)令和元年7～9月期の結果概要は以下の通り。今期(令和元年7～9月期)の業況は、緩やかな改善基調の中にも一服感が見られる。業況DI値は前回調査から5.5ポイント悪化、売上額DI値、資金繰りDI値はともに悪化した。産業別に見ると「経営上の問題点」ではサービス業において「従業員の確保難」が3期連続で上位となっており、同業種において従業員数の不足感が続いている。

## 1. 今期(令和元年7～9月期)の状況

**【売上額】**今期(令和元年7～9月期)の売上額DI値(全産業)は、前回調査(令和元年(2019年)4～6月期)の(▲16.3)から2.7ポイント悪化し、▲19.0となった。業種別では前回調査から、卸売業が6.1ポイント、サービス業が1.2ポイントそれぞれ改善し、製造業が1.4ポイント、小売業が17.4ポイントそれぞれ悪化した。

**【資金繰り】**今期の資金繰りDI値(全産業)は、前回調査(▲12.6)から1.0ポイント悪化し、▲13.6となった。業種別では前回調査から、小売業が4.4ポイント改善し、製造業が1.3ポイント、卸売業が4.5ポイント、サービス業が2.4ポイントそれぞれ悪化した。

**【業況】**今期の業況DI値(全産業)は、前回調査(▲16.3)から5.5ポイント悪化し、▲21.8となった。業種別では前回調査から、製造業が7.9ポイント、卸売業が3.0ポイント、小売業が8.7ポイント、サービス業が2.4ポイントそれぞれ悪化した。

**【従業員】**今期の従業員DI値(全産業)は、前回調査(▲18.4)から1.4ポイント改善し、▲17.0となった。業種別では前回調査から、製造業が1.3ポイント、卸売業が4.6ポイント、小売業が2.9ポイントそれぞれ改善し、サービス業が2.4ポイント悪化した。

## 2. 来期(令和元年10～12月期)の予想

来期(令和元年10～12月期)の全産業の予想DI値は、売上額▲22.4、資金繰り▲15.3、業況▲20.7となった。

## 3. 経営上の問題点

第1位は、製造業・卸売業・小売業が「需要の停滞」、サービス業が「利用者ニーズの変化への対応」となった。

**※DI値とは……**ディフュージョン・インデックス(Diffusion Index)の略で、本調査では前年同期(平成30年7月～9月期)と比較して売上額、業況、資金繰りなどが「増加」「好転」したなどとする企業割合から、「減少」「悪化」したなどとする企業割合を差し引いた値である。

本件担当：大阪商工会議所 中小企業振興部 経営相談室 06-6944-6451

## 【調査の概要】

- ・調査名：第157回中小企業景況調査（中小企業庁・中小企業基盤整備機構）
- ・調査時期：令和元年8月23日～9月1日（前回：令和元年5月24日～6月1日）
- ・調査方法：経営指導員による、調査票に基づく聴取り調査
- ・調査対象：大阪市内の中小企業・小規模事業者
  - ※ 全国7,983件中、大阪商工会議所分324件。
  - ※ 本紙では、大阪商工会議所分のうちとくに小規模事業者（従業員：製造業20人以下、商業・サービス業5人以下）294件について取りまとめた。  
〔製造業76件、卸売業66件、小売業69件、サービス業83件〕

## ■DI値推移（全産業）

	154回調査	155回調査	156回調査 (前回)		157回調査 (今回)	
	H30(2018年) 10～12月期	H31(2019年) 1～3月期	R1(2019年) 4～6月期	R1(2019年) 7～9月期	R1(2019年) 7～9月期	R1(2019年) 10～12月期
売上額（増-減）	-18.5	-19.1	-16.3	-11.2	-19.0	-22.4
資金繰り（好-悪）	-13.6	-11.5	-12.6	-10.5	-13.6	-15.3
業況（好-悪）	-18.1	-17.0	-16.3	-5.8	-21.8	-20.7
従業員（過-不）	-18.8	-17.0	-18.4		-17.0	

## ■経営上の問題点

順位	製造業	件数	卸売業	件数	小売業	件数	サービス業	件数
1位	需要の停滞 ↑	15 (9)	需要の停滞 →	22 (21)	需要の停滞 →	12 (11)	利用者ニーズの 変化への対応 →	14 (11)
2位	製品（加工） 単価の低下・ 上昇難 ↑	9 (7)	販売単価の低 下・上昇難 ↑	6 (7)	大型店・中型店 の進出による競 争の激化 →	11 (10)	需要の停滞 →	8 (9)
	生産設備の不 足・老朽化 ↑	9 (6)						
3位	/		仕入単価の上昇 ↓	5 (9)	消費者ニーズの 変化への対応 ↓	9 (10)	従業員の確保難 ↓	7 (9)
			メーカーの進出 による競争の激 化 ↑	5 (6)			人件費の増加 ↑	7 (8)

〔注〕（ ）内は前回（令和元年（2019年）4～6月期）調査結果

↑ = 前回より高順位

→ = 前回と同順位

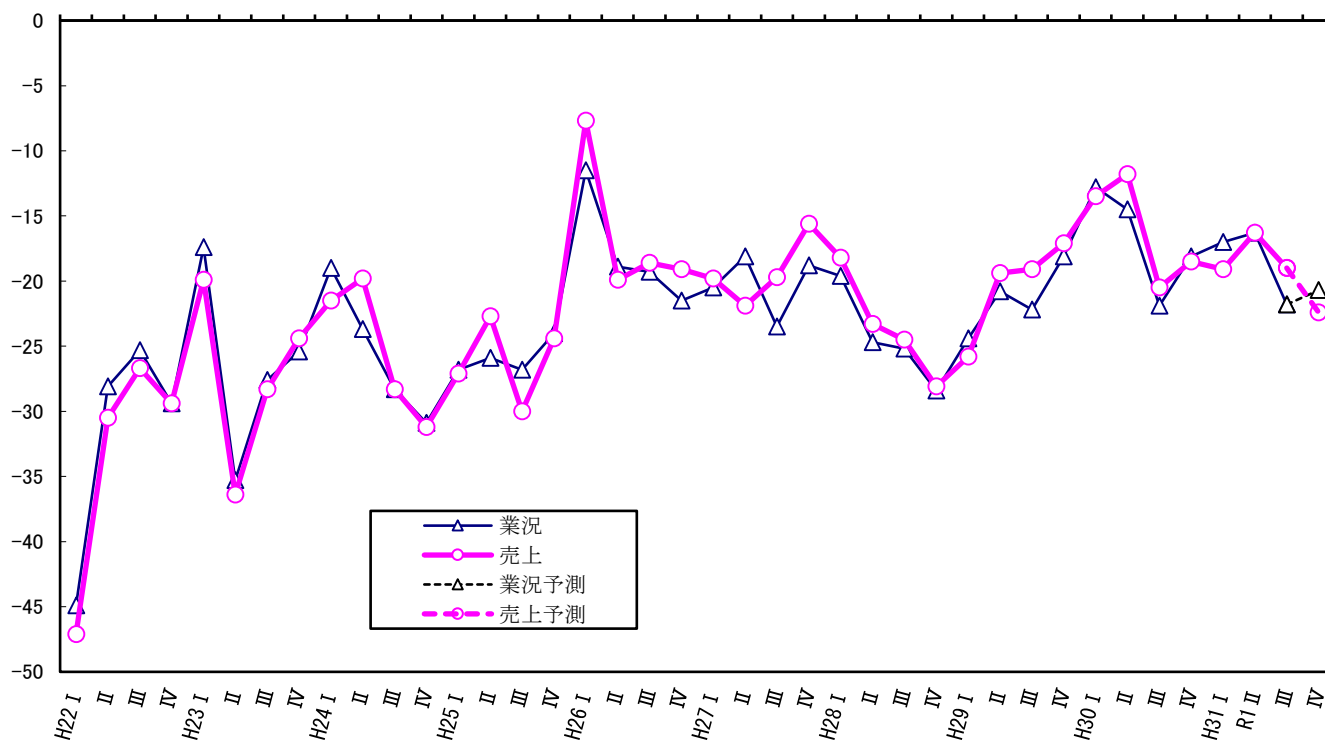
↓ = 前回より低順位

■ 状況比較表（業種別）

項目	業種	今期の状況(7~9月期)				前回(4~6月期)からの推移	来期の予想(10~12月期)			
		増加	不変	減少	増-減		増加	不変	減少	増-減
売上額										
	製造業	25.0	44.7	30.3	▲ 5.3	▲ 1.4	15.8	44.7	39.5	▲ 23.7
	卸売業	19.7	36.4	43.9	▲ 24.2	6.1	15.2	39.4	45.5	▲ 30.3
	小売業	10.1	36.2	53.6	▲ 43.5	▲ 17.4	15.9	27.5	56.5	▲ 40.6
	サービス業	25.3	42.2	32.5	▲ 7.2	1.2	26.5	45.8	26.5	0.0
	合計	20.4	40.1	39.5	▲ 19.0	▲ 2.7	18.7	39.8	41.2	▲ 22.4
	前回	22.1	39.5	38.4	▲ 16.3		19.0	50.0	30.3	▲ 11.2
資金繰り		好転	不変	悪化	好-悪		好転	不変	悪化	好-悪
	製造業	9.2	78.9	11.8	▲ 2.6	▲ 1.3	10.5	78.9	10.5	0.0
	卸売業	1.5	74.2	24.2	▲ 22.7	▲ 4.5	3.0	74.2	22.7	▲ 19.7
	小売業	5.8	62.3	30.4	▲ 24.6	4.4	7.2	55.1	36.2	▲ 29.0
	サービス業	9.6	72.3	16.9	▲ 7.2	▲ 2.4	7.2	68.7	21.7	▲ 14.5
	合計	6.8	72.1	20.4	▲ 13.6	▲ 1.0	7.1	69.4	22.4	▲ 15.3
	前回	9.2	68.7	21.8	▲ 12.6		8.5	71.8	19.0	▲ 10.5
業況		好転	不変	悪化	好-悪		好転	不変	悪化	好-悪
	製造業	15.8	56.6	27.6	▲ 11.8	▲ 7.9	13.2	53.9	31.6	▲ 18.4
	卸売業	13.6	40.9	45.5	▲ 31.8	▲ 3.0	13.6	43.9	39.4	▲ 25.8
	小売業	7.2	46.4	44.9	▲ 37.7	▲ 8.7	10.1	43.5	44.9	▲ 34.8
	サービス業	16.9	54.2	26.5	▲ 9.6	▲ 2.4	19.3	50.6	26.5	▲ 7.2
	合計	13.6	50.0	35.4	▲ 21.8	▲ 5.5	14.3	48.3	35.0	▲ 20.7
	前回	14.6	53.7	31.0	▲ 16.3		16.7	56.8	22.4	▲ 5.8
従業員		過剰	適正	不足	過-不					
	製造業	2.6	80.3	15.8	▲ 13.2	1.3				
	卸売業	3.0	77.3	13.6	▲ 10.6	4.6				
	小売業	1.4	71.0	14.5	▲ 13.0	2.9				
	サービス業	2.4	62.7	31.3	▲ 28.9	▲ 2.4				
	合計	2.4	72.4	19.4	▲ 17.0	1.4				
	前回	1.4	73.5	19.7	▲ 18.4					

「今期の状況（除従業員）」は令和1年7~9月期状況であり、前年同期の平成30年7~9月期との比較。来期の予想は令和1年10~12月期予想であり、平成30年10~12月期との比較である。「前回」欄は令和1年4~6月期調査の数字。従業員は、過去との比較ではなく、業務量に照らした過不足。

■景況グラフ（売上額・業況）



※表示値=D I（増加・好転-減少・悪化）値

※ I 期=1-3月、II 期=4-6月、III 期=7-9月、IV 期=10-12月

※令和元年IVは予想値